



感謝の手紙

我孫子警察署

警察官の対応に対する感謝の手紙

1

1

卷之三

卷之三

1

四

1

本日は神奈川に警備隊を派遣して、警備隊員と連絡して、
前連にて前より持て下さる連合手配の結果、貴様の御
考へられた事項の取扱子敷にて発見されたり。
年賀の時限、電信連絡を経り、安堵感にて事
であつた。 様子にて、聞かれたる所によれば、
第一の是の件は、前より行かれたる所には、さうと述べ
親戚の義兄弟等が体をいたしました。 すなうめかり月
一回、第一の参考事項、 田川洋輔中士は、松井
成田市へ通じて附合の事、自ら入港して居り
まつた。 おこしで船の乗組みにて、おおきな

嚴復上書于光緒二年，說：「我國之富，不外銀一千萬兩，
于斯一過，吾國行將一蹶不振。」後遺稿中，
欲言機事，而未竟，誠不以爲有失乎？
復一念曰：「吾人之憂患，不外於一千萬兩，惟在
十寒之十年。」
傳之，為紀元年，二十年之大變，合於「十寒」之說。
總之，二十年一寒暑，二十年一歲月，二十年一歲時，
二十年一歲事，二十年一歲運，二十年一歲命，二十年一歲死。
二十年一歲死，二十年一歲生，二十年一歲活，二十年一歲死。

卷一百一十五

卷九

1

行方が分からなくなつた妻への親切かつ丁寧な対応に、生活安全課員に対する感謝の手紙をいただきました。